# GW組合の続き

3日目の朝は、2泊した方、1泊して帰られる方々をまずは見送ります。はるばる京都まで帰られるHP管理人さん、大阪の夫婦漫才を楽しませていただいたご夫婦、夜に来て翌朝帰りの上田市在住なのにチノさん等々が帰られました。

行き当たりばったりの旅の様相を帯びてきた私は、3日目の行先もあやふやです。2日目は山梨県北部の林道を探索したことですので、この日は越境して埼玉県秩父方面の林道を探索してみることに決定。ベースキャンプのある小武川林道から出て、開拓した快走農道を南進。これまた快適なR20で甲府市を抜けて秩父往還のR140を北進します。途中から絡んできたRG250ガンマ・ウォルターウルフ仕様とバトル？しながら、道の駅「みとみ」で小休止。「寒くないですか？」って、「そりゃあ外気温10度だけど、私は着込んでいるからね。」と。

ちょうどその頃ウダウダキャンプ地では

この先、日本一長い一般国道トンネル「雁坂トンネル」（なんと有料560円也！）、滝沢ダムを見ながら壮大なスケールで駆け下るループ橋を経て埼玉県秩父市へ。この日1本目の林道「御岳山線」の入り口を探します。ツーリングマップルの地図だけでは分かりづらいので、電波の入るところはスマホGPSで確認。入り口からの登りは荒れていて、四輪では通行困難でしょう。スマホの電波が入ったとこで、群馬県へ遠征しているアメオ氏からのメールを開いたばかりに・・・。電波と共に雨雲が飛んで来たので、林道脇の木陰でラーメンランチと合羽タイムとします。「着る止む、脱ぐ降る」の法則？で、雨が止むことを祈ります。意外と長い林道御岳山線を制覇。

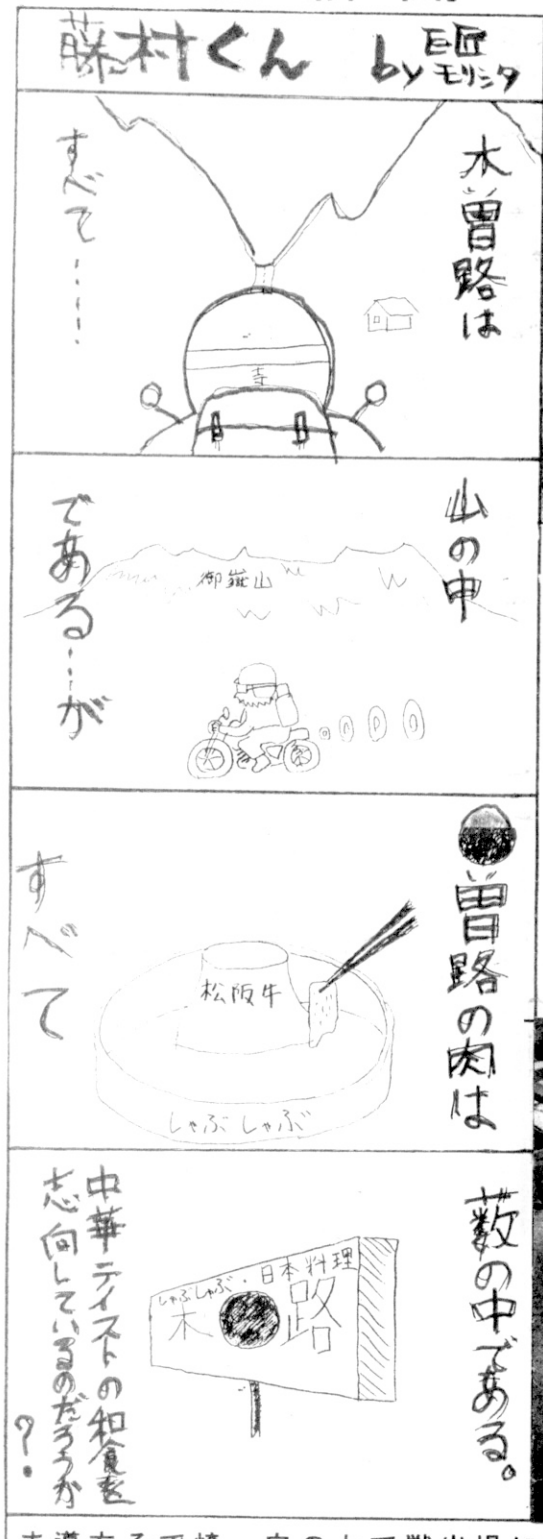
次に、埼玉県秩父市から長野県川上村の三国峠まで抜けるロングダート「中津川林道」へ向かいます。オフローダーなら一度は走破してみたいメジャー林道である中津川林道へ向かう途中から、「崖崩れのため王冠キャンプ場から先は通行止」の立て看板がチラホラ目に飛びこんできます。それでも悲しい性かな、「行けるところま～で行こうか～とレイドが呟く？」で林道IN。キャンプ場を過ぎてもゲートOPEN！しばらくこの林道の雰囲気を味わいながら、淡い期待を抱きながら進むも・・・、ザ・ン・ネ・ン！約7kmで、橋の先に鉄壁のゲートが。ここを抜けて、川上牧丘林道を下るのは、事前道路情報をよく調べて雪のない夏から秋にリベンジしたいと思います。この日の（今回の）林道探索は、これにて終了です。

ということは、また有料の雁坂トンネルを戻らないといけませんねぇ。燃料タンク容量が16L（航続距離約400km）と余裕のレイドは安心ですがね。秩父から韮崎は、それでも戻るのに時間が掛かります。馴染み（今回3回目）のスーパーヤマトで買い出しを済ませた頃には、日没時間が近づいています。一時止んでいた雨が再び降り出し、プチナイトランでベースキャンプへ。流石はアウトドアの達人集団です。雨でも簡易タープで焚火宴会が既に始まっています。

この日から来られた涼風さん、寺崎組長、地下鉄さん、赤貧さん、アベさん、オガタさん、「山田石油」の7名が最終日の宴会に参加です。地下鉄さんの天麩羅、組長のやや塩辛い油揚げチーズ入り等が回ってきました。雨か疲れか、撤収は早かったように思います。

翌朝雨は上がり、のんびりとご飯を炊き出したら、皆さん撤収準備に掛かられました。私と違って片付けも早いですねー。組長は軽トラにバイク3台とキャンプ道具一式、さらにタイヤ数本を収めました。バ○ク王の買い取りですかー？自転車のアベさんも出発進行。リュックと少量の荷物で3泊4日とは恐れ入りました。待望の定年を迎えられ、晴れて存分な時間を得られた赤貧さん。クロスカブ改で、途中天竜辺りで1泊して三重まで帰るとのことでした。残るは涼風さんと私だけ。涼風さんは、ここをベースにもう1泊するとのこと。私もそろそろ帰り支度を始めましょうかねー。

記　山田社長




# 2013しらびそ

8月15日、家族がぐっすり寝ているお盆の丑三つ時。荷物をバイクに積み込み、茄子と胡瓜の馬を踏まないよう慎重にバイクへパッキング。「夜間半額割引」を利用したい為、4時までに高速に乗り込みたい焦りと、慣れないバイクへのパッキングに手間を食い、3時過ぎ何とか脱出。むむ？そうなんです！今夏のしらびそへは、念願の新車YAMAHAスーパーテネレ号での参戦。

インターまでは車で1時間の道のり。焦らず夜の東丹沢の山道を宮ケ瀬湖と族車を横目にインターへイン。ETCゲートをくぐって見た時間は4時。だめか？と思いつつ下り線を長野方面へ爆走かと思いきや、安堵感からか？すぐに眠気が襲いPAへ直行。小一時間ベンチで爆睡。観光バスからの乗客が、ぞろぞろ歩き回っている殺気で目を覚まし、そそくさとSAを後にする。高速でのテネレ号は、恐ろしい程今まで味わった事のない加速とスピード感で、新境地に踏み込んでしまった罪悪感？を感じる最高な乗り味であります。諏訪湖にて朝食にすると、花火大会の準備でガードマンやら作業員で慌しい雰囲気。そそくさとSAを後にする。

飯田のインターを降りる。料金は「半額」割引成功である。喬木村のコープで買出し。ここでも、お祭りと花火の準備でごった返す。買い出しを終え、いざ「しらびそ峠」へ。青看では約五〇キロ！荷物満載のテネレ号の実力はいかに？そう思いつつトロトロ山道を登りだす。長～く涼しいトンネルを抜け一気に登る。標高が上がるにつれ、視界が広がり耳抜きをしながら、緑の中へ虫達をブチ当てながらひた走る。ここは前に小熊と遭遇し、20m程並走した場所でもある。そんな事をふと思い出し、アクセルを若干戻し対向車と獣達を気にしてひた走る。荷物満載でも余裕のパワー大満足！気がつくと峠に到着。雲がかかり南アルプスの眺望は拝めず残念。キャンプ地へ向かう。

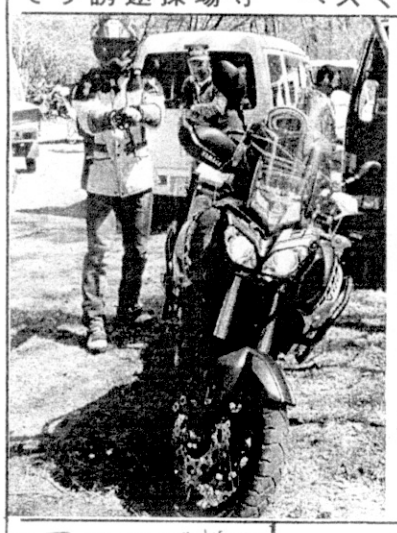
思えば「しらびそ」は6年前、寺崎組とのファーストコンタクトの場でありました。一人キャンプ地を探そうと、閉鎖されたゲートの前で途方に暮れていると、ゴ三浦さんに誘導され、自然と引き込まれ今に至ります・・・。偶然の遭遇？出会いでしたが、今思えば、私にとって必然だったのかもしれません。

現地に着くと、赤貧さんと浜松軍団村松岡さん（カブ）ひらりんさん（ジムニー）山田さん（レイド）がいらっしゃいましたが、浜松軍団は帰り支度の真っ最中。テネレ号をじっくり見て頂き帰路につかれました。残念。

木陰はとても涼しく、下界には戻らないスイッチがバシット入るかと思いきや、虻と蠅の応酬。蠅蠅虻虻蠅虻虻といった感じ。蚊取り線香煙幕バリア、ネバネバハエ取り紙トラップ、化学兵器虫よけ当番？等々、赤貧さんの武器が効きません。一つ効いたのは一撃必殺！打つべし！蠅叩とうちわ。交戦していると、夕方からはポツリポツリと雨粒が。雨脚は次第に強くなり、タープに溜まる水風船爆弾を5～6分おきに処理する程のゲリラ豪雨のなか、バイク談議や人生について？健康についてなど、いろんな話と缶詰をつまみに美味しい日本酒をちびちびと極上の夜を過ごしていると、何時しか夜空には星が出ていて虫達も休戦してくれました。

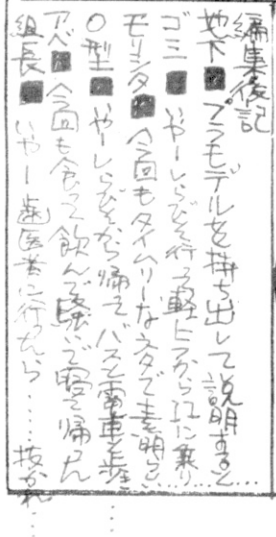
朝になると、太陽が出て良い天気。朝飯を済ませ、朝の行事中に虻が急襲。臀部に2箇所被弾。衛生兵！と叫べずケツ拭く。敗北感と痛みを感じながらテントに入り、本でも読もうかと寝転ぶとウトウトzzz贅沢に二度寝タイム。十二時頃再度起床。特に用も無かったので、ゆっくり荷物を撤収していると、北脇さんとカバさんが到着。テネレ号をじっくり見て頂き重い腰をやっと上げ、しらびそを後にしました。

帰りも同じルートで、途中の諏訪湖SAの湯につかり無事帰宅。虫達との激闘はありましたが、今夏の猛暑を忘れられ、快適な長距離移動とスピードの麻薬に目覚めてしまった今年のしらびそでした。




記　サンペイ

# 厳冬の、耐えるしばれる北海道 2012Ver その2

まさかのトラブル…

昨日は思いのほか出発準備に手間取ってしまったので、早めに起床。コーヒーで暖を取り簡単な朝食を終える。暖機運転をしながらテント撤収と思い、セルボタンを押したものの頼りないセルモーター音。エンジンかからず…？？？！。一晩でバッテリーをも弱らせてしまうほどの寒さだったのか？いや、そんなはずはない。でも一つ気になる事があった。今回、ややリスクの大きいツーリングとなった事から、通信手段の確保ということで携帯の充電用にバイクにシガーソケットを付けてきた。それでもバッテリーを気遣い、走行中にしか充電をしていなかった。それなのに何故？こちらの乏しい電気的知識からいくと、エンジンが回っている限りは常に発電状態にあって、バッテリーにも電気が供給されているはず？なのだが。押しがけで始動を試みるも全く歯が立たず…。このKLX125は気化器ではなく燃料噴射装置なのだ。押しがけ程度の発電量では、燃料噴射装置の作動には及ばないのか？焦る。「リタイヤ」という言葉が頭をちらつかせる。悔しいがこうなったら人の手を借りるしかない。「こんな時期にバイクなんて！」と説教を喰らいそうで気が引けたが、糠平温泉の駐在所でブースターケーブルを借り、自動車に繋げさせてもらい事なきを得た。